

秋涼の候、会員および関係者の皆さまには、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃は当会の事業に多大なる御理解、御支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

今年度は6月よりIYS第17期団員の10名で研修や交流活動に取り組んでまいりました。今年度も「国内で行う国際交流・人権研修」をテーマに様々な学びを積み重ねております。

団員たちは沖縄スタディーツアーに向け、さまざまな活動を通じて学びました。関西大学堺キャンパスでは、チームビルドゲームを通じてベトナム人の方々と交流を深めながら、ベトナム文化について学びました。大正区でのフィールドワークでは、関西沖縄文庫を訪れ、沖縄の歴史を知ることができました。団員たちはたくさんの出会いや経験を重ね、人権に関する視野も広がったと思います。

卒団生や経験者である青年が中心となって企画運営される社会貢献活動のヤングサンタ事業も、準備期間に入っております。IYSの魅力の一つに卒団生や関係者のつながりをあげることができます。新旧のなかまがつながり、新たな内容や企画を提案しながら、新しいIYSの形を作っていくことを期待しています。

これから、寒い季節に入ります。皆さまにおかれましては、くれぐれもご自愛いただき、実りある日々を過ごされますことを心から願っております。

2025年度ヤングサンタ

ヤングサンタ実行委員会では、スタッフの確保や家庭募集など、今年度の活動が楽しく、充実したものになるよう話し合いを進めています。

昨年度の開催方法を参考に、さらに今の自分たちができることは何なのか考えています。昨年度の第16期団員も合流し、新しく加わったメンバーの柔軟な発想で新しいヤングサンタを作ってくれることを期待しております。

低年齢層の子どもたちに、クリスマスを楽しんでもらい、夢を与える大切な社会貢献活動です。青年たちの活動にご期待いただき、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



サンタさんは各家庭の希望に合わせ、お宅訪問の際に一緒に「何か」を作ったり、歌を歌ったりする予定です。また、絵本の読み聞かせや激励メッセージの読み上げなども行うこともできます。

ヤングサンタ実行委員会では、子どもたちが「サンタさんは普段の自分のがんばりを実は見てくれているよ」と思ってもらえるようにメダルやカードにして渡すなどの具体案が提案されました。私たちができることを明確にし、これからの家庭説明会でスタッフとご家庭がつながり、当日のことを提案・検討していけたらと思います。



(写真は昨年度の活動風景です)

2025年度の活動報告

6月から始まった今年度のIYSの活動も後半の啓発活動や社会貢献活動に入ってきています。IYS 通信夏号でお伝えした「世界の人権の流れ」、「関西大学堺キャンパスでのチームビルディング」の研修後の団員活動について報告します。

「同和問題について学ぶ」

8月3日(日)、堺市立人権ふれあいセンター(あいてらす堺)を訪れ、同和問題について学びました。IYS事務局次長の谷岡様を講師に迎え講話を聞き、その後施設の見学を行いました。



【団員の感想】

●人権教育を学校で積極的に取り入れることで、無意識の偏見を減らし、共生の意識を育むことが大切だと思った。

●人には人の「ふつう」があり、決して自分の価値観で物事を見てはいけない。人の話を聞くときは、自分の意見をぶつけるだけでなく、一度受け止め相手を尊重することが大切だと思う。

●部落差別は今、形を変え、SNSやAIの普及によって見えづらくなっている。そのため、正しい知識を周りに発信していく活動をするのが大切だと思う。

「日本・ベトナム交流会（さかい利晶の杜）」

8月9日（土）、さかい利晶の杜を訪れました。茶の湯体験では、作法を学びながらベトナム人の方々と交流しました。その後、文化交流会を行いました。日本の遊びとベトナムの遊びを通して、お互いの文化の違いを楽しく学びました。



【団員の感想】

- 日本とベトナムでは、家族に対する考え方や価値観が全く違うことに気づいた。
- 異文化交流で大切なことは、自分の固定観念を手放し、相手の立場に立つことが大切だと思った。

「平和学習（沖縄戦について）」

8月17日（日）、堺市立平和と人権資料館を訪れました。國守さん（資料館職員）から、説明を聞き、館内見学をした後、沖縄戦についての調べ学習をしました。



【団員の感想】

- 戦後80年という長い月日が流れ、戦争経験者がいなくなり始めているのは深刻な問題だと思う。
- 今まで知らなかったことを知り、戦争はしてはいけないと改めて感じた。

「大正区フィールドワーク（関西沖縄文庫）」

8月23日（土）、大正区を訪れました。講師の金城 馨（カナグスクきんじょう かおる）さんと共に、まずはフィールドワークに出かけました。最後に講話を聞き、沖縄スタディーツアーに向けての学びを終えました。



【団員の感想】

- 沖縄にルーツを持つ人々が、大阪でどのように暮らしてきたかを知った。
- 戦争は平和と平和がぶつかるから起こるという話は、すごく納得しました。

「沖縄スタディーツアーにむけて」

8月29日（金）、沖縄スタディーツアー前の最後の研修でした。自分の事前学習をふりかえり、学びたいことを明確にしました。



沖縄戦当事者の方は戦争を再び起こしたくないと真摯に思い、辛い記憶の中で伝えてくれたことを知り、後世に語り継いでいかなければならないと思いました。語り部が今でもどのように活動しているのか聞いてみたいです。



沖縄戦の特徴であるガマについてもっと理解を深め、他の戦争との違いについても学びたいです。



ひめゆり学徒隊の事実から、学校教育における「平和教育の重要性」について学びたいです。

沖縄戦争中の人々の暮らしや思いから、今行われている活動、そしてこれから先の未来にどう伝えていくのかについても学びたいです。



実際に現地に行って、基地問題を自分ごととしてどうやって考えればいいのか学びたいです。



平和の捉え方の違い、人の価値観の違いについて知り、それを今後に繋げていきたいです。



戦争によって奪われた人権や平和を取り戻すために、沖縄ではどのような活動をしているのか知りたいです。



巻き込まれた沖縄県民の被害、戦後の復興について学びたいです。

かつて敵であったアメリカ軍が今は駐留する中で、日本にいるアメリカ兵は勝手に派遣されているのか、それともエリート階級にいる人が来ているのか学びたいです。

今後の沖縄、未来に向けて、地域の方々、子どもたち、基地にいる方など、どんな思いを持っていて、どんな取り組みがあるのか気になります。

